

粉河高等学校

実施日時	平成31年 1月 22日(火)
参加者	生徒240名、教職員30名 計270名
実施内容	消防署員による講演、心肺蘇生法講習、搬送法講習、防災地図作り・プレゼンテーション、マイトイレ作り、パーティション作成

事前の取組

- ① 那賀消防組合東消防署との相談・打合せ
- ② 粉河町防災地図づくりのための、フィールドワーク用地図の準備
- ③ 各班分けをクラスで考えさせ、リーダーがプレゼン発表することの準備



主なプログラム

- ① 那賀消防組合東消防署の方々を招いての講演
署長より、緊急時についての心構えや応急処置や応急手当の重要性を学習。
- ② 応急手当指導と搬送講習
応急手当指導（心肺蘇生法とAED使用法）と搬送講習（簡易担架の作成と搬送法）を学習。
- ③ パーティションの作成
段ボールを使用してプライベート空間の確保について学習。
- ④ マイトイレづくり
新聞紙とビニール袋、ペットシートを利用した簡易トイレの作成を学習。
- ⑤ 粉河町内防災地図作り（B班）
6人一組で災害時の様々な危険について検討しながら粉河町を歩き、危険個所を確認。
- ⑥ 講習内容を、全員の前でプレゼンテーション
B班のみグループ全員でステージにあがり、プレゼンテーション。
粉河町内を歩いて、危険だと感じた場所の写真をスクリーンに映し、説明と解説をする。
- ⑦ すべての講習を振り返って、感想文を書く



参加者感想文

今回の防災スクールを受けて、家具が倒れないようにするために対策をしているのとしていないのでは、地震が起きた時の被害は全然違うということが分かりました。だからそういった今出来ることからやっていきたいと思います。また、何かあって気を失っている人が目の前にいて、今日やったことがすばやく正確に出来るか不安だけど教えてもらったことを忘れず、自分に出来ることをしたいと思いました。

これまでに大きな地震を経験したことがないから、その時のことをイメージしにくいけど、様々な話を聞いたり、DVDを見たりして、やっぱり高校生の私たちが行動しなければならないのかなと思いました。

今回の防災スクールを受けて、倒れている人に遭遇した場合の手順を分かりやすく教えて頂いたり、ケガをして動けなくなった人の運び方を教えて頂いたりして、とても役立ちました。また、粉河の地域の様子をみて、危なくなっている所が数多くあって、自分の住んでいる町にも危ない所がたくさんあると思うので、調べてみたいと思いました。そして、調べたことを地域の人々に伝えて一人でも多くの方が助かるような地域活動をしていきたいと思いました。そして、家に帰ったら家族と話をし、家具の設置や待ち合わせ場所などをもう一度確認しようと思いました。一つ対策をするだけで命を守れるのでしようと思います。

今回のおかげで、自分の手で命を救うということに対して少し自信が持てました。この防災スクールを受けて良かったと思いました。

成果と課題

- 消防署員の方々の講演・講習により、災害時や緊急時には自発的に行動する必要性を学び、防災意識の向上を図ることができた。
- マイトイレ作りやパーティション作成によっ

て、防災知識や避難中のプライバシーの重要性を学ぶことができた。

- 地域を防災の観点から改めて観察することにより、自分たちの生活環境や状況を見直すことができた。また、プレゼンテーションの準備時間を作ったことで、発表の質も向上した。
- 実施時期は、2年生の宿泊体験学習期間中に設定しており、遅い開催となっている。今回、かなり気温が低く、降雪の中のフィールドワークとなってしまったので、開催時期等については検討をしたいが、会場や設備・引率指導教員の確保の面から難しく、課題である。